

前期

文系

平成 30 年度入学試験学力検査問題

地理歴史・数 学

〔人文社会学部、経済経営学部：経済経営学科 一般区分、  
都市環境学部：都市政策科学科 文系区分

90 分〕

答案用紙

- ・日本史 3 枚
- ・世界史 2 枚
- ・地 理 3 枚
- ・数 学 2 枚

注 意

1. 監督員の合図があるまで、問題の内容を見てはいけません。
2. 数学は、筆記用具のほか定規、コンパスの使用を認めます。  
ただし、分度器の使用は認めません。
3. 受験番号及び氏名は、答案用紙の所定欄に必ず記入してください。

(例) 受験番号 1234567X の場合

		1	2	3
4	5	6	7	X

4. 解答には黒鉛筆またはシャープペンシルを使用し、必ず配付された答案用紙に記入してください。なお、世界史、数学は裏面にも解答欄があるので注意してください。  
答案用紙には、解答に関係のないことを記入してはいけません。
5. 字数指定の設問で解答欄にマス目が用意されている場合、アルファベット及び数字は、1マスに2字記入しても構いません。
6. 問題は次に示したページにあります。
  - ・日 本 史 1 ページ～7 ページ
  - ・世 界 史 8 ページ～15 ページ
  - ・地 理 16 ページ～26 ページ
  - ・数 学 27 ページ～28 ページ
7. 試験中に不鮮明な印刷等に気付いた時は、手をあげて監督員に申し出てください。
8. 答案用紙を切り取ったり、持ち帰ったりしてはいけません。
9. 問題冊子の余白は利用可能ですが、どのページも切り離してはいけません。
10. 問題冊子は、持ち帰ってください。また、試験終了時刻まで退室できません。



# 目 次

第一章 緒 論 ..... 1

第二章 基礎理論 ..... 10

第三章 實驗方法 ..... 25

第四章 實驗結果 ..... 45

第五章 結論 ..... 65

第六章 參考文獻 ..... 85

第七章 附 錄 ..... 95

第八章 圖 表 ..... 115

第九章 數 據 ..... 135

第十章 計算機程序 ..... 155

第十一章 總 結 ..... 175

第十二章 謝 詞 ..... 195

# 日本史

- 1 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい(史料は一部省略したり、書き改めたところもある)。

其の一に曰く、「昔在の天皇等の立てたまへる子代の民、処々の屯倉、及び、別には臣・連・伴造・国造・村首の所有の部曲の民、処々の田荘を罷めよ。仍りて食封を大夫より以上に賜ふこと、各差あらむ。……」

其の二に曰く、「初めて京師を修め、畿内・国司・郡司・関塞・斥候・防人・駅馬・伝馬を置き、及び鈴契を造り、山河を定めよ。……」

其の三に曰く、「初めて戸籍・計帳・班田収授の法を造れ。……」

其の四に曰く、「旧の賦役を罷めて、田の調を行へ。……別に戸別の調を収れ。」

(『日本書紀』、原文は漢文)

問 1 上記の文章は、ある政変の翌年に、孝徳天皇を中心とした新政権が政治改革の方針を示したものであるとされている。その政変を何というか答えなさい。

問 2 下線部(1)の政治が実際に実行されるのは30～50年後の天武・持統天皇の時代であったとされる。その二天皇の時代には、①天皇を中心とした身分秩序が定められ、②銭貨の铸造が行われた。また③新たな令がつくられ、④戸籍や⑤宮都がつくられた。二天皇の時代に行われた改革について、身分秩序制度の名・銭貨の名・令の名・戸籍の名・宮都の名を入れて、100字以内で説明しなさい。

問 3 下線部(2)に対応するため、中央の官制が整えられたが、地方にはどのような仕組みがつくられたとされているか、その目的も含めて50字以内で答えなさい。



2

次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

治承4年(1180)、平氏打倒の兵を挙げた源頼朝が、源氏ゆかりの地である鎌倉に入り本拠地と定めて以来、鎌倉は武家政治の中心地として発展していった。頼朝は鎌倉に入るとすぐに鶴岡八幡宮を移建して、その東隣に政庁を構え、御家人たちにも宿館を構えさせて、都市建設をはじめていった。

鎌倉と京都との往来が盛んになり、都市鎌倉が本格的に発展していったのは3代執権北条泰時の時代である。源氏3代將軍断絶の後に起こった危機を乗り越え、新たな政治体制を構築した泰時は、鎌倉内の街路や区画の整備を進めるとともに、鎌倉の外に通じる道の開削をおこない、また大型船が入港できる港湾施設の建設を支援して、鎌倉を外に開かれた都市として発展させていった。

執権北条時頼は祖父泰時の政治を引き継いで執権政治を強化し、新たに皇族將軍を迎え、有力御家人を排除して北条氏嫡流への権力集中をはかっていった。時頼は、積極的に大陸の文化や技術を受け入れ、禅宗(臨済宗)を保護した。時頼が南宋から僧を招いて鎌倉の北の入り口に建立した寺院を筆頭に、幕府の保護をうけて鎌倉の各所に禅宗寺院が建立され、その文化や学問は武家文化に大きな影響を与えた。一方、鎌倉で伝道活動をおこない、『立正安国論』を著した日蓮は、他宗や幕府の迫害をうけ何度も流罪になったが、その教えは鎌倉の下町の商工業者や東国の地方武士に広がっていった。

鎌倉幕府の滅亡後、武家政権の本拠地を京都に定めた足利尊氏は、鎌倉には子の基氏を派遣して東国を管轄させた。鎌倉はふたたび京都とならぶ政治・文化の中心として栄え、足利氏、上杉氏等によって多くの寺院が建立された。しかし、鎌倉府は、次第に独立性を強め幕府と対立し、6代將軍足利義教のとき鎌倉公方持氏が討ち滅ぼされ(永享の乱・1438~39年)、享徳3年(1454)の乱を機に東国は戦乱状態に陥り、鎌倉は急速に衰退していった。

問 1 執権北条泰時の時代の政治体制の転換と、鎌倉の都市としての発展は、ある戦乱によって政治状況が大きく変わったことと深く関係している。その政治状況について 100 字以内で説明しなさい。

問 2 北条時頼が建立した寺院の名称と、その寺院を筆頭として、その後足利義満の時代に鎌倉と京都で整えられた官寺の制度の名称をそれぞれ答えなさい。

問 3 日蓮はなぜ他宗や鎌倉幕府から迫害をうけたのか。その理由を 50 字以内で説明しなさい。

問 4 足利基氏の段階の鎌倉府の支配組織はどのようなものであったか。また享徳 3 年にはそれがどのように変化したか、80 字以内で説明しなさい。

3 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

a 徳川家康は二つの異なる原料による貨幣を鑄造・発行した。これらの貨幣は原料別に鑄造所が置かれ、一方は江戸と京都に、他方は伏見、その後は駿府などにも置かれたが、最終的には、ともに江戸に一本化された。両者とも同一の原料内で複数種類の貨幣が鑄造され、同一原料の貨幣内の計算方法は、例えば前者では1両＝4分と定められた。しかし、後者は貨幣自体に価格が表示されておらず、異なる方法が採用された。

このような異なる種類の貨幣を流通させるため、両者を換算するための基準相場が設定された。しかし、実際の相場は固定された訳ではなかった。加えて、これらの貨幣は利用地域に偏りが見られた。

徳川家光によっても、家康とは異なる原料の貨幣が鑄造・発行された。この貨幣は、江戸だけでなく近江国坂本など各地に鑄造所が置かれた。また、大量に鑄造され全国に広く供給されることとなった。

b 明治政府は、貨幣制度を整えるため1871年に法令を定めた。これにより、新たな単位による硬貨が発行された。ここでは複数の貨幣単位が新たに設定されたが、これら貨幣単位の関係は、aに見る1両＝4分と異なる記数法(n進法)を採用していた。この時に発行された硬貨は、江戸時代に鑄造された貨幣を鑄つぶしても損をしないような価値尺度を持つ、西欧先進国と共通の貨幣制度を建前としていた。



問 1 a に記される徳川家康が鑄造・発行した 2 種類の原料による貨幣とはどのようなものか。①貨幣の名称(それぞれ 1 つずつ記すこと)、②原材料の名称、③鑄造所の名称、④貨幣の価格を定める計算方法(それぞれ〇〇貨幣と記すこと)について、90 字以内で答えなさい。

問 2 a に記される徳川家光が鑄造・発行した貨幣とはどのようなものか。①貨幣の名称、②原材料の名称、③鑄造所の名称について、およびこれ以前の近世の初めに国内で流通していた同原料の貨幣の流通状況も含めて、90 字以内で答えなさい。

問 3 b に記される法令により貨幣制度はどのように変化したか。①この法令の名称、②この時採用された貨幣単位のすべて、③この貨幣単位の記数法、④この時発行された貨幣の国内・対外での実際の使用状況、⑤建前とされた貨幣の交換体制とその結果について、100 字以内で答えなさい。

4 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

1878年、広田弘毅は福岡県の石屋の長男として生まれ、1901年に第一高等学校を卒業すると東京帝国大学へ進んだ。この時期の中国では義和団の乱を機にロシアが中国東北部を占領して勢力を拡大していた。この動きに対抗するため、1902年、第一次桂太郎内閣は日英同盟を結び、ロシアとの開戦準備を進めた。<sup>(a)</sup>この時、帝大の学生であった広田は『日英同盟と世界の輿論』と題する小冊子の発行にかかわった。

日露戦争が勃発すると、広田は四国の松山にある捕虜収容所におもむき、通訳としてロシアの内情を探った。その後、1906年に外交官領事官試験に合格し、翌年、北京に赴任した。

1914年、第一次世界大戦が勃発すると、第二次大隈重信内閣は日英同盟を理由にドイツに宣戦した。翌年、政府はドイツが山東半島に持つ権益を継承するとともに満州の権益も強固にしようと、中国に二十一カ条の要求をつきつけ、大部分を認めさせた。<sup>(b)</sup>この原案は軍の意見等を参考に外務省で作成され、同省通商局の第一課長であった広田も作成に協力していた。

その後、広田はオランダ公使、ソ連大使などを歴任し、1933年、斎藤実内閣の外相に就任し、つづく岡田啓介内閣でも留任した。二・二六事件が起こって岡田内閣が総辞職すると、広田は後継首相に任命され、軍の要求を入れて組閣した。<sup>(c)</sup>

広田内閣は「国策の基準」を策定して準戦時体制をつくりあげ、日独防共協定を結んで新たな外交の道を開いたが、軍や政党の反発が強く、1937年1月に総辞職した。その後は第一次近衛文麿内閣の外相をつとめるなど外交問題の解決に尽力したが、戦後、A級戦犯として刑に処せられた。

問 1 下線部(a)に関して、日英同盟とは他に、別の国と協調する政策も進められていたが、この政策は一般的に何と呼ばれるか、この政策を進めた人物名と、その内容も含め、80字以内で答えなさい。

問 2 下線部(b)に関して、二十一カ条の要求は山東問題を引き起こしたが、その後、この問題はパリ講和会議からワシントン会議をへて、どのように決着がつけられたのか、中国民衆の動向や日本政府の思惑を記しながら、100字以内で答えなさい。

問 3 下線部(c)に関して、第二次山県有朋内閣が制定し、第一次山本権兵衛内閣で改正され、広田内閣が陸軍の要求に従い復活させた制度がある。この制度の名称と内容、そして、広田内閣以後の内閣への影響について100字以内で答えなさい。